

マイクロ波映像レーダがとらえた有珠山噴火後の様子(2)

データ収集：独立行政法人・通信総合研究所

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲のPI-SAR画像(4月6日観測)から、さらに6日後の4月12日に観測された画像です。洞爺湖温泉町南の火口の状態が大きく変化していることが判ります。また、国道230号線沿いに新たな火口(火砕丘)が出現しており、洞爺湖温泉町に影響を及ぼした泥流の状況が変化していることも判読できます。噴煙の影響を受けずに地表面の状態を観測できるPI-SARデータの時系列情報から多くのことを読みとることができます。現況把握はもとより、防災対策上の支援情報を得る上で、光学センサ観測にはない特徴を持つ航空機搭載マイクロ波リモートセンシングへの利用ニー

